

# 航空機騒音の環境基準の達成状況の改善に向けた施策等ロードマップ (1/2)

※施策や目標等は、進捗を踏まえ必要に応じて見直しを行う。

施策	指標	時期(年度)										備考		
		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 エコ・エアポート 基本計画目標年度 目標①	新B・C滑走路 供用 目標②	発着回数 50万回/年 目標③			
◆:エコ・エアポート基本計画に示した施策 ●:継続する施策 ☆:新たな施策	年間発着回数(万回)	22.6	22.8	23.5	24.6	25.2	25.7	25.8				(50)	( )は想定	
<b>&lt;目標&gt;</b> 騒音環境の状況(屋外)	環境基準の類型指定面積に対する達成範囲の割合(1類型Lden57dB以下)(%)	85.9	86.3	87.0	87.2	87.4	87.7	87.9	→ 88			88以上	注1 注2	
	常時測定局での環境基準達成率(%)	61.3	62.6	67.4	62.0	65.2	66.7	67.7						
1 発生源対策	機材改良 ◆低騒音型航空機の導入促進 ●騒音INDEXに基づく国際線着陸料金制度の実施 ☆環境に配慮した航空機の導入促進に係る検討	低騒音型航空機導入率(%)	86.4	87.6	90.7 基準年度	92.2	93.0	92.8	93.7	→ 93.7 +3ポイント			→ 改善	
	発着規制 ●夜間の離着陸制限(カーフェュー)の実施 ☆【深夜・早朝対策】「スライド運用」の実施 ☆【深夜・早朝対策】運航機材の制限									23時~翌6時	→ 0~6時(注3)	→ 0時半~5時		注3
	運航方法の改善 ◆航空機騒音のモニタリングと結果公表の充実 ●飛行コースの監視、騒音測定 ●地域相談センター等での環境情報公開 ●インターネットでの環境情報公開 ☆環境情報公開サイト「成田空港環境こみゅにてい」の更なる充実													
	(その他の施策) ●騒音軽減運航方式(急上昇方式の採用等) ☆リバーススラスト(逆噴射装置)の制限 ☆CDO(Continuous Descent Operations:連続降下方式)												● 施策の可能性検討 ● 施策の実施に向けた関係機関(国、航空公司等)との調整	
	地上騒音対策 ◆補助動力装置(APU)の使用抑制と地上動力装置(GPU)の使用促進 ●運用管理細則に基づくAPU利用制限の実施 ●GPU能力増強(新型機への対応)	固定スポットでのフルサービスキャリアのGPU使用率(%)	91.2	89.3	90.3	90.8	92.7	89.9	88.3	→ 90以上 維持			→ 維持	
	(エンジン試運転対策) ●エンジン試運転に係るNRH(ノイズリダクションハンガー)使用促進	NRH使用率(%)	92.2	93.9	93.2	94.0	94.7	94.6	93.7				→ 100	
	技術革新等に伴う新たな航空機騒音対策の検討及び実施												● 検討及び実施	
	2 空港構造の改良 ●防音堤・防音壁等整備 ●エプロン・誘導路・ターミナルの配置改良												更なる機能強化対応	→ 継続実施
													更なる機能強化対応	→

注1 現在までの値は運航実績に基づく騒音コンター(再現計算)面積との対比。目標①は、2013~2017年度の改善傾向を継続すると想定して設定。目標②は騒音コンター(予測)面積との対比。ただし、コンターのうち海上、類型指定範囲外に及ぶ部分は評価対象外。

注2 2020年度までは2018年度の類型指定状況で算出。発着回数50万回時の類型指定状況は稲敷市全域が対象となっていると仮定。

注3 C滑走路供用開始までの当面の運用として、A滑走路は0時~6時、B滑走路は23時~翌6時(現況どおり)。

# 航空機騒音の環境基準の達成状況の改善に向けた施策等ロードマップ (2/2)

※施策や目標等は、進捗を踏まえ必要に応じて見直しを行う。

施策	指標	時期 (年度)										備考	
		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 エコ・エアポート 基本計画目標年度 目標①	新B・C滑走路 供用 目標②	発着回数 50万回/年 目標③		
◆:エコ・エアポート基本計画に示した施策 ●:継続する施策 ☆:新たな施策	年間発着回数 (万回)	22.6	22.8	23.5	24.6	25.2	25.7	25.8				(50)	( )は想定
<b>&lt;目標&gt;</b> 騒音環境の状況 (屋内)	航空機騒音に係る環境基準の屋内達成率 (改善目標 Lden50dB 以下) (%)	76.3	77.0	77.8	78.7	79.5	80.0	80.5	83	100相当	100相当		注4 注5
<b>3 空港周辺対策</b> <b>土地利用</b> ●騒防法・騒特法の区域の検討 (支援)													
<b>補償等</b> ◆騒音対策の更なる充実 ●住宅の防音工事助成の実施	住宅の防音工事助成進捗率 (%)	《30万回対応 (現行)》 76.3	77.0	77.8	78.7	79.5	80.0	80.5	《50万回対応》 83	100相当	100相当		
●学校、共同利用施設などの防音工事助成の実施	学校、共同利用施設などの防音工事助成進捗率 (%)注8	《30万回対応 (現行)》 96.3	96.0	96.0	96.7	99.6	100	99.3	《50万回対応》 100	100相当	100相当		注6
●移転補償の実施	移転補償進捗率 (%)	《30万回対応 (現行)》 88.4	88.9	89.8	90.0	91.0	91.0	91.4	《50万回対応》 93	100相当	100相当		
☆【内窓設置事業】 ①寝室への内窓設置工事 ②寝室の壁・天井補完工事									先行実施	エリア拡大			
☆【既存防音工事の充実】 ①ペアガラス助成 ②世帯の人数による防音工事限度額の柔軟化 ③浴室、洗面台、トイレの外郭防音化									先行実施	エリア拡大			注7
<b>その他地元対策</b> ●成田国際空港騒音対策委員会の開催 ●周辺対策交付金の交付													

注4 防音工事実施により屋内で50dB以下を達成し得ることから、騒防法指定区域内での住宅の防音工事助成進捗率と同じとする。目標①は、2013～2017年度の改善傾向が継続すると想定して設定。

注5 移転等により対象家屋数が減少する可能性があるため、目標年における実施可能な数を100%相当とし、その達成を目指す。

注6 2020年度の進捗率は、2013～2017年度の改善傾向が継続すると想定して設定。

注7 2018年10月よりA滑走路側において先行実施。2020年4月より対象エリアを拡大。

注8 毎年度の新規の助成申請件数を含めた、年度末時点の達成率。